

生物多様性企業活動ガイドラインの作成に当たっての論点

①構成について

- どのような構成がよいか？

②基礎知識編（第Ⅰ編）

- 基礎知識としてどのようなことを説明するとよいか？

③基本的な考え方（第Ⅱ編 第1章）

- 基本的な考え方として何を取り上げるとよいか？

④企業と生物多様性との関わりとその評価（第Ⅰ編 2.1.及び 2.2.、第Ⅱ編 2.2.）

- 企業と生物多様性との関わりの評価をする際は、どのような流れで考えるとよいか。
 - 企業活動の範囲の特定
 - 関わりの評価
 - 取組の優先順位の検討
- 企業活動と生物多様性との関わりの切り口をどのようにするか。またこれらの内容をどのように扱うか。
 - 「恩恵」と「影響」
 - 「チャンス」と「リスク」
 - 「影響」について：第2の危機「里地里山などにおける人間活動の縮小による影響」も積極的に扱うか？
 - 日本の企業にとって実感できる「恩恵」「影響」「チャンス」「リスク」とは？

⑤企業活動別の種類別の取組（第Ⅱ編 3.1.及び 3.2.）

【注】

第1回検討会においては、以下の3.1.及び3.2.に関する詳細な議論はせず、次回までに必要に応じ、委員にご意見をうかがい、第2回の資料に反映させる予定です。

- どのような種類や区分を取り上げるとよいか。

【直接的に関わる取組】

- 土地開発（建設、保有地管理、跡地利用、再開発）
- 非生物資源の開発
- 工場等の操業
- 生物資源の利用
- 運輸

【間接的に関わる取組】

- 原材料調達
- 流通・販売
- 金融
- 研究・開発

- 企業活動ごとの配慮の内容をどのようにするか？

⑥企業活動別の種類別の取組－社会貢献活動－（第Ⅱ編 3.3.）

- 社会貢献活動についてはどのような内容を示すか？

⑦企業活動を促す上での他のセクターの役割（第Ⅱ編第4章）

- 他のセクターの役割をどのようにするか？